

平成 2 8 年度
全国学力・学習状況調査
分析結果報告書

国語

算数
数学

質問紙
児童・生徒
学 校

平成 2 8 年 1 2 月
千葉県総合教育センター

序

平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査は、今年度は平成28年4月19日（火）に、多くの関係者の御尽力により無事実施されました。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立していくことを目的として実施されています。今年度も全国の小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年及び特別支援学校小学部第6学年の全児童、中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校第3学年及び特別支援学校の第3学年の全生徒を対象に実施されました。調査の内容は、国語と算数・数学の教科に関する調査と、学習意欲や学習環境等に関しての児童生徒及び学校に対する質問紙調査でした。全国的な学力の状況については、国立教育政策研究所のホームページに詳細が記されていますので御参照ください。

本県の調査結果の概要については、すでに平成28年9月末に発表されていますが、教科に関する調査結果は全体的に見ると、正答数及び平均正答率については、概ね全国平均と同程度と言えますが、詳細に見ると、中学校・数学の「知識」「活用」が全国を下回り、他は全国と同程度でした。平均正答率の推移を見ると、小学校においては算数A、算数Bが低下傾向にあり、中学校においては数学Aが全国を下回る状況が続いています。

「児童生徒質問紙」を併せて見てみると、勉強時間が長い児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られ、小学校では、全く勉強しない児童との差が大きく開いています。また、主体的・対話的で深い学びに関する項目では、積極的に取り組む児童生徒ほど正答率が高い傾向にあります。

「学校質問紙」では、小中学校ともに、家庭学習を促す働きかけを行っている割合は全国をやや下回りますが、改善傾向にあります。しかし、課題を与えている割合が、中学校では全国を大きく下回る傾向が続いています。

千葉県教育委員会では、昨年度までも全国学力・学習状況調査の詳細な結果及びその分析をまとめてきました。今年度についても、学校現場での活用を考慮し、年内に本報告書を取りまとめました。これは、できる限り早く詳細な結果を公表することで、各学校及び各市町村教育委員会が、本センターが作成した児童生徒の学力や学習状況を分析できるツールの活用と併せて、次年度に向け、迅速かつ的確に指導改善の取組を進められるようにすることを目的としています。

これらを活用し、次年度の教育計画や指導方法の改善を進め、児童生徒の学力向上及び学習状況の改善を進めていかれることを期待しております。

平成28年12月

千葉県総合教育センター所長 安藤 久彦

目 次

序

I 結果の概要	1
1 本県の課題	
2 教科区分別調査結果	
3 本県及び各都道府県の状況	
4 教科に関する調査	
(1) 国語	
(2) 算数・数学	
(3) 平均正答率（全国比）の推移	
(4) 平成 19 年度からの本県の平均正答率（全国比）の推移	
5 質問紙調査に関する調査	
(1) 児童生徒質問紙調査	
(2) 学校質問紙調査	
II 結果の詳細	1 1
1 教科に関する調査	1 2
(1) 小学校国語	
(2) 中学校国語	
(3) 小学校算数	
(4) 中学校数学	
2 質問紙調査	5 1
(1) 児童生徒質問紙調査	5 2
(2) 学校質問紙調査	6 4
児童生徒の家庭学習の充実に向けて	
教員研修の充実に向けて	
カリキュラム・マネジメントへの取り組みについて	
主体的・対話的で深い学びの充実に向けて	
小学校教育と中学校教育の連携について	
指導改善サイクルの確立を目指して	
III 改善策	9 5
1 分析ツール	
2 みんなで、それぞれの立場で指導改善	
3 指導改善サイクルの例	
4 指導改善サイクルの実践事例	
IV 資料	1 0 3
1 調査実施状況	
2 学力向上に役立つ情報	
V 回答結果集計データ	1 0 9